



病院長
広域医療連携センター
センター長
南 敏明

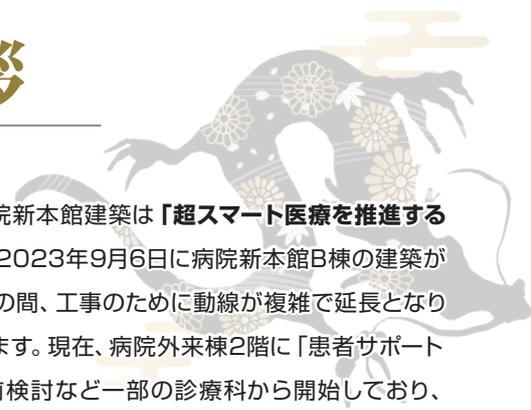
2024 年頭のご挨拶

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

2027年に迎える大阪医科大学創立100周年記念事業、病院新本館建築は「超スマート医療を推進する大学病院」を基本方針に掲げて工事が順調に進行しています。2023年9月6日に病院新本館B棟の建築が着工となり、2025年5月30日に竣工予定です。残り1年5カ月の間、工事のために動線が複雑で延長となりご不便をお掛けいたしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。現在、病院外来棟2階に「患者サポートエリア」を設置しています。入院前面談、口腔内チェック、術前検討など一部の診療科から開始しており、本館B棟開院後は1階に移転予定です。新たな「患者サポートエリア」として、患者さんにできるだけ動いていただくことなくワンストップでサービスを提供できるよう努めてまいります。

なお、2024年1月8日（月・成人の日）は平常通り開院いたします。少しでも気になることがあれば、休日ですとご利用しやすいかと存じます。

本年も皆さまの窓口になる「広域医療連携センター」を何卒よろしくお願い申し上げます。





消化器内視鏡センターにおける炎症性腸疾患(IBD)への取り組み

消化器内視鏡センター センター長
消化器内科 医長
なかむら しろう
中村 志郎
専門分野：腸、炎症性腸疾患
資格等：日本消化器病学会認定 消化器病専門医、
日本消化器内視鏡学会認定 消化器内視鏡専門医

2023年10月より消化器内視鏡部門のセンター長を拝命しました消化器内科の中村志郎です。当センターは、院内の複数の診療科が検査や処置で活動する重要な病院の中央部門の一つです。昨年の病院本館A棟の始動とともに受け入れが開始された救急診療においても、外来・病棟と連携し、スタッフ一同、迅速かつ活発に対応を行っています。当センターは、その本館A棟の4階フロアにあり、通常の検査室4部屋と透視装置付きの検査室2部屋を中心に可動しています。各検査室は個室化され、最新の検査機器と処置具を完備し、受付や待合、前処置室や検査時の鎮痛鎮静後の観察室などそれぞれ十分なスペースを確保し、不安なく安全な検査を受けていただける体制を整えています。

患者さんに安心してご利用いただけるように努めてまいりますので、今後とも消化器内視鏡センター、消化器内科共々よろしくお願ひします。

急増する患者数、進歩する内科治療

私の専門の**炎症性腸疾患(IBD)**は、**潰瘍性大腸炎(UC)**と**クローン病(CD)**を総称する疾患名として用いられています。以前は、希少性の難病とされていましたが、食事やライフスタイルの欧米化に伴って本邦においても患者数が急増し、近年ではUC約22万人、CD約7万人と既に30万人時代を迎えています。

残念ながら根本原因は不明ながら、内科治療は急速に進歩しており、患者さんの治療経過や社会生活の活動性は著明に改善されてきています。持続する下痢や出血・血便、そして腹痛ならびに体重減少や若年性の肛門周囲膿瘍や痔瘻などでお困りの場合には早めの受診をお勧めいたします。そのような患者さんがいらっしゃれば是非ご紹介をお願いします。

経験豊かな専門医によるチーム体制

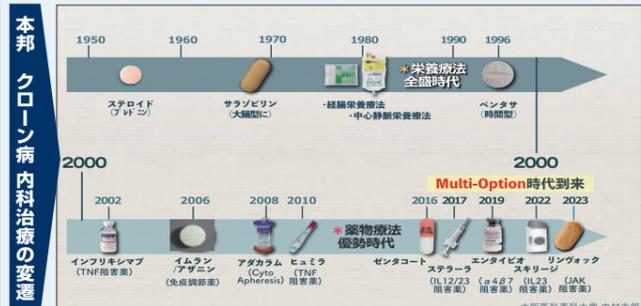
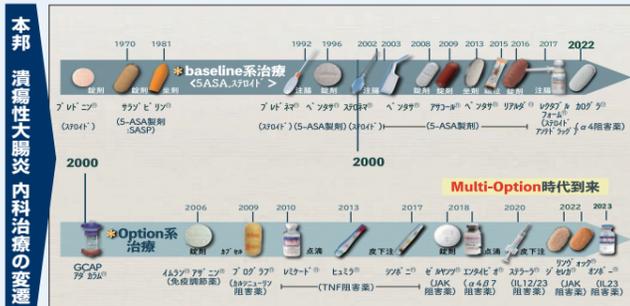
当院の消化器内科には、1,200名を超えるIBD患者さんが通院治療されている炎症性腸疾患センターがあり、経験豊かな専門医(中村・宮崎・柿本・平田・碓山)が月曜から金曜まで、平日の全ての日に外来診療を行っています。急なご紹介や症状の変動

などで予約外受診の患者さんにも出来る限り対応を行っており、治療でお悩みの場合など、受診いただければと思います。IBDでは場合により、UCでは重症化、大腸癌併発、CDでは腸閉塞などを併発し、外科治療を余儀なくされる場合があります。当院では消化器外科の医師との良好な連携があり、緊急を含め迅速に対応できる体制がとられています。

国内屈指の実績を持つ内視鏡センター

内視鏡センターとして、消化管では上部の太田和寛医師、岩坪太郎医師、下部の平田有基医師、中沢啓医師らを中心に、緊急内視鏡やESDを含めた難易度の高い内視鏡治療が行われており、**腹腔鏡下十二指腸腸局所切除術、内視鏡的逆流防止粘膜切除術、バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術**など他施設では実施経験が乏しい**高度な内視鏡処置**にも既に実績があり対応可能な体制です。

また、胆膵疾患についても、小倉健医長を筆頭に、植野紗緒里医師らの胆膵チームは、他の基幹施設でも対応が困難な緊急を含めた内視鏡検査と処置を多数行っており、国内屈指の実績を挙げ、海外からも高い評価を受けています。



消化器内科
炎症性腸疾患センター
初診担当表

月	火	水	木	金
中村 柿本	中村 平田	宮崎	柿本	宮崎 平田

上部内視鏡オープン検査を始動しました。
検査は平日・土曜日(1:3-5)で実施しています。

オープン検査詳細 >>



2023年12月現在

重篤な合併症を引き起こす「脂質異常症」。異常値を見つけたら早期の治療を!

循環器センター **しば まりこ**
斯波 真理子

専門分野：脂質異常症、家族性高コレステロール血症、
脂質異常症難病、核酸医薬開発



2022年より循環器センターに所属しております斯波真理子です。本稿では私の専門の脂質異常についてご案内します。

血液中の脂質が異常値を示す病気を、**脂質異常症**といいます。具体的には、**高トリグリセリド(TG)血症**(中性脂肪の異常)、**高LDL-C血症**(悪玉コレステロールの異常)、**低HDL-C血症**(善玉コレステロールの異常)のことを示します。高TG血症、低HDL-C血症は、メタボリックシンドロームでも合併する病態です。また、高LDL-C血症や低HDL-C血症、高TG血症は、動脈硬化を促進してしまうため、治療が必要になります。食事や運動などの生活習慣の改善でも十分に改善しない場合には、薬物治療も必要になります。また、高LDL-C血症を示す遺伝病である、**家族性高コレステロール血症**を見逃さないことも重要です。

そのようなことでお困りの患者さんの専門医療機関として、ご相談のみでも構いませんので積極的に受入れをさせていただきます。

家族性高コレステロール血症

高LDL-C血症、高TG血症、低HDL-C血症を示す遺伝病です。生下時から高LDL-C血症を示し、若い時から動脈硬化が進行して、心筋梗塞を起こしやすい病気です。若い時から高LDL-C血症を示す(15歳未満で140mg/dL以上、15歳以上で180mg/dL以上)場合、ご紹介ください。また、高TG血症(500mg/dL以上)、低HDL-C血症(30mg/dL以下)などの極端な例も、脂質異常症難病の可能性がります。ご紹介いただくと、**遺伝子検査まで行い、確定診断して治療法を決定いたします。**

診断→治療→手術までの迅速なトータルケア

脂質異常症の重篤な合併症は**心筋梗塞**や**狭心症**ですが、当外来ではそれらの診断や治療を積極的に行っています。特に家族性高コレステロール血症や脂質異常症難病は、早期から冠動脈疾患を含む心疾患の評価をする必要がありますが、当外来では積極的に検査を行い、早期の治療が可能になっています。

また、冠動脈疾患でも外科的な治療が必要な場合は、心臓血管外科との連携で、手術までスムーズに治療を行う体制を整えています。

「受診→検査の一連流れ【例】」>>



エキスパートから成る「脂質異常症外来」班

厚生労働省難治性疾患政策事業 原発性脂質異常症調査研究班班長の私を中心に、脂質異常症外来を行っております。この班は、全国32名の研究分担者と、22名の研究協力者の医師から成り、**脂質異常症難病の診療体制構築、レジストリー、疾患啓発に取り組み、全国的なネットワーク**があります。そのため、どのような症例でも対応ができます。

その中で、本院循環器センターは、内科系、外科系などあらゆる診療科が有機的に繋がり、連携して疾患の診断、治療に携わっていることも大きな強みです。



超音波によるアキレス腱厚の測定

斯波(循環器内科) 初診 ⇒ 水 AM 木 PM

高脂血症専門外来では**中学生以下**の方や、**ご家族同日**でのご受診も可能です。

2023年12月現在

医療連携室からのお知らせ

「2023年度 大阪医科薬科大学病院連携病院長会総会」開催報告

2023年11月16日(木) 大阪新阪急ホテルにて、日ごろからお世話になっている連携病院の院長先生を対象に「2023年度 大阪医科薬科大学病院連携病院長会総会」を開催しました。

78施設84名の方にご参加いただきました。まず、病院長 南 敏明からご挨拶・本院の現況報告のあと、医療プロフェッショナル支援室、医学教育センターより各々の活動内容のご説明、一般社団法人医療サイバーセキュリティ協議会 常任理事 松山 征嗣先生より「今後の医療セキュリティと医療DX」のテーマでの特別講演をいただきました。最後は副院長 星賀 正明の閉会挨拶をもって無事に盛会のうちに終了することができました。

引き続き実施された懇親会も、感染拡大の防止に細心の注意を払いつつ、和やかな場をもつことができました。お忙しい中ご出席いただきました皆様には心よりお礼申し上げます。



TOPICS



「デジタルサイネージ」設置のご報告

9月29日(金) より会計窓口前の待合にデジタルサイネージを設置・運用いたしました。100インチの大型モニターでご覧いただくことができます。皆様にとって役に立つコンテンツを発信していきますので、ご期待ください。



今後の開院日と休診のお知らせ

- 2024年1月8日(月・成人の日)
 - 2024年9月16日(月・敬老の日)
 - 2025年1月13日(月・成人の日)
- は、**通常診療日**です

外来診療、各種診療、手術を行います。
シャトルバス(JR高槻⇄大阪医薬大病院) 通常通り運行
※三島南病院は休診のため、シャトルバス(大阪医薬大病院⇄三島南病院) 運休です。

- 2024年3月30日(土)
 - 2024年6月29日(土)
 - 2024年8月31日(土)
 - 2024年11月30日(土)
 - 2025年3月29日(土)
- は、**休診**とさせていただきます

本院の都合により休診とさせていただきます。ご不便をおかけいたしますが、よろしくお願い致します。

医療連携室ご利用のご案内

● 医療連携室「FAX紹介申込書」受付時間

平日/8:30~20:00 土曜日/8:30~12:00

※第2・第4土曜日は休診です。

※FAX受信は24時間可能(休診時も含む)。

但し受付時間以外の受信については翌診療日以降の対応となります。

大阪医科薬科大学病院 広域医療連携センター 医療連携室
〒569-8686 大阪府高槻市大学町2-7

- TEL.072-683-1221 (大代表) 内線2308
- TEL.072-684-6338 (医療連携室直通)

FAX

送信先 FAX 072-684-6339

本院専用のFAX紹介申込書及び封筒をご用意しております。
ご利用の場合は、電話またはFAXにてご請求ください

編集後記

コロナの 때가嘘のように大阪駅や京都駅でも多くの外国人観光客の姿を目にします。日本に惹かれて来た人もいれば、単に円安でお得だから来た人など旅の目的は各々異なりますが、何事にも『明確な目的』を持つことが大事と考えます。なぜならそれは、モチベーションを高め、日々の活動に前向きなエネルギーを与えることにつながります。2024年も本院が掲げた「スーパースマートホスピタル」の実現という『明確な目的』をもって、医療連携室スタッフ一同、日々の取り組みに全力を尽くす所存でございます。先生方には今後も変わらぬご指導を賜りますようお願い申し上げます。(T.N.)

